

湖北

1997. DEC⇒No. 6

明治学院大学自動車部OB会



目次

OB名誉会長あいさつ2

OB会長あいさつ3

羽田親蔵氏（湖北寮）あいさつ6

部長先生あいさつ12

現状報告（監督）13

OB名簿16

現役住所録61

OB会々則63

編集後記68

湖北第 6 号発刊にあたり

名誉会長 土倉 弘

この度、学院自動車部のOB幹事会にて、自動車部部誌「湖北第 6 号」を12月に発刊を決めましたので、OB・OG・現役の皆様にお届けいたします。

振り返れば、これも今迄の学院の先生、部長、湖北寮の関係者、OBの方々の御協力・御支援を賜りまして深く感謝いたします。

また各年度の部員諸君の運営努力に対しましても、改めてお礼を申し上げます。

私は今販売業界に居りますので、自動車についてはどうしてもエコノミーに関心が向かいがちですが、地球は何も人間だけが生活をしている訳ではありません。他の動物や植物が存在して初めて人類も繁栄できる訳です。

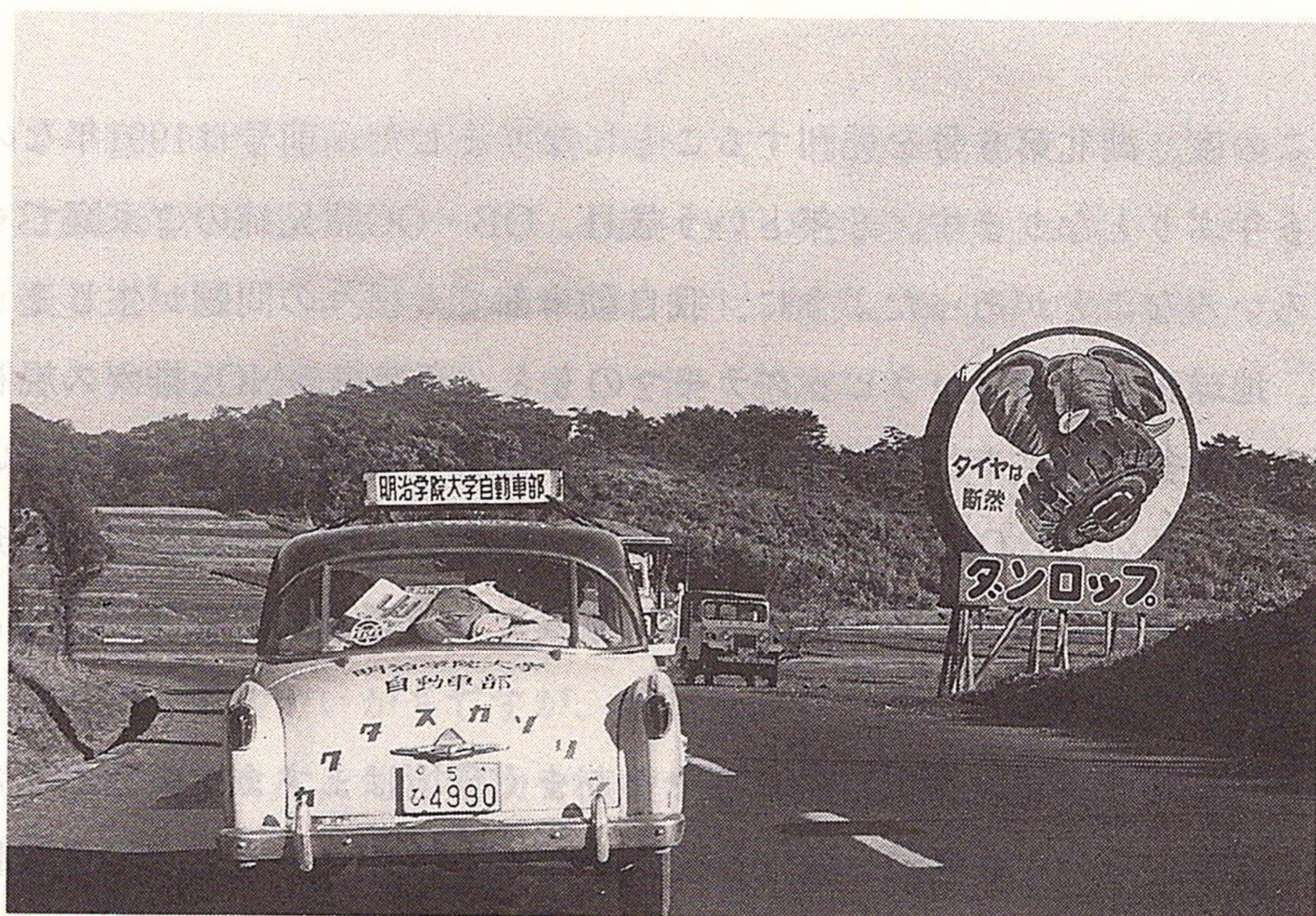
自動車もこれからはエコロジー（生態系）に配慮し、電気自動車のような環境にやさしい産業を目指すことと、また安全な運転を心がけ、車社会の中で豊かな生活をお互いに心がけたいと思っています。

この度、湖北第6号を発刊することになりました。前号は1991年なので6年ぶりとなります。6年という歳月、OB・OG諸兄弟のご家庭でもいろいろなことがあったように、我自動車部でも種々の問題が生じました。地球環境保全というビッグテーマのもと、商業車のNOx排ガス規制により、部車の2トントラックが適合せず代替を余儀なくされてしまいました（この件はOB、OG皆様のご援助、57年度生の石田先輩のご配慮により規制対策済の新車を格安に購入することができ、まずは一安心と言ったところでした。）

この様に自動車及び我自動車部を取りまく環境はますます厳しくなるでしょう。その中で活動続ける後輩達の為にもOB会一丸となって活動を見守りたく今後もより一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に昨年11月急逝した77年度生河原君のご冥福を祈りたいと思います。

懐かしの部車





湖北寮と自動車部との出逢い

湖北寮 羽田親蔵

湖北寮創立40周年記念祝賀会には昔懐かしい自動車部のOBの方々に大勢参加して戴き、学生時代に山中湖湖北寮で過ごした思い出話などを交えながら賑やかな歓談祝賀会で一夜を共に楽しく過ごして戴く事ができまして私共家族一同生涯忘れがたき歴史に残るイベントとして大変感激して居る所です。「光陰流水の如し時人を待たず」正に格言の如く歳月は流れ去って行きます。

さて41年前に遡って記憶を辿りつつ回顧して見ますと昭和29年「私は高校生」父が「48才」明治学院との出逢いから現在の場所「養蚕の桑畑」に学生を主とした合宿所を新設したのがきっかけとなり、明治学院大学湖北寮と名称を付けて戴き昭和30年名実共に学院大生の厚生施設「合宿所」としてうぶ声をあげたのが出発の第一歩でした。この時に付けた湖北と言う名称が後の地名となり現在山中湖でも通称この地域を湖北と呼ぶようになって現在に至って居ります。

寮開設初年度に合宿に訪れて下さったクラブが4クラブでその内の1クラブが自動車部でしたので湖北寮の誕生と同年に自動車部に出逢った事になります。最初に参加された部員数は10人程で自動車の台数は2台だったと父から聞いた覚えがあります。また合宿に山中湖まで来るには学校を早朝に出発して国道246 から籠坂峠138号を通って山中湖に至る通常のコースですが、当時は砂利道で道も狭く困難を極めての道程だったと想像します。山中湖での合宿練習と申しましても湖の一周道路、当時は車があまり通行しなかったとか、周辺の空地を利用しての練習程度で用が足りていたような気がします。その後昭和34、5年になって平野に自動車練習グラウンドを借用出来るようになり、合宿回数と同時に部員数も年々増大し、東京オリンピックが開催された39年から42年には部員数、合

宿参加人数も80名位の大所帯に達し男女別々の合宿をした経験もありました。

又、明学体育会の中でも大きいクラブという印象を与えるまでに成長された感があります。又、寮を利用下さったクラブの中で年間を通して40日間という長期間滞在されたクラブはいまだかつて自動車部以外ありません。従って明治学院の中でも唯一の親しみ深い絆で結ばれた感じのするクラブと思っております。

回想して見ますと自動車部の春合宿で年始の仕事が始まるのが例年の慣習の様になっておりました。山中湖の春3月は残雪がある年、又春の大雪で車が動かず除雪作業で終った年といった色々なアクシデントが多く毎年悩まされた事が印象に残ります。またグラウンド探しに飛び回った事、自衛隊の隊員食堂で食べた麦御飯、自衛隊富士学校グラウンドでの練習など数限りなくちぐはぐながら脳裏をかすめ複雑に走馬灯の如く41年間の足跡が巡ってきます。

いずれにしても父子2世代に渡っての長い年月は我が家「湖北寮」の宝物として生涯大事にして行きたいと念願しております。





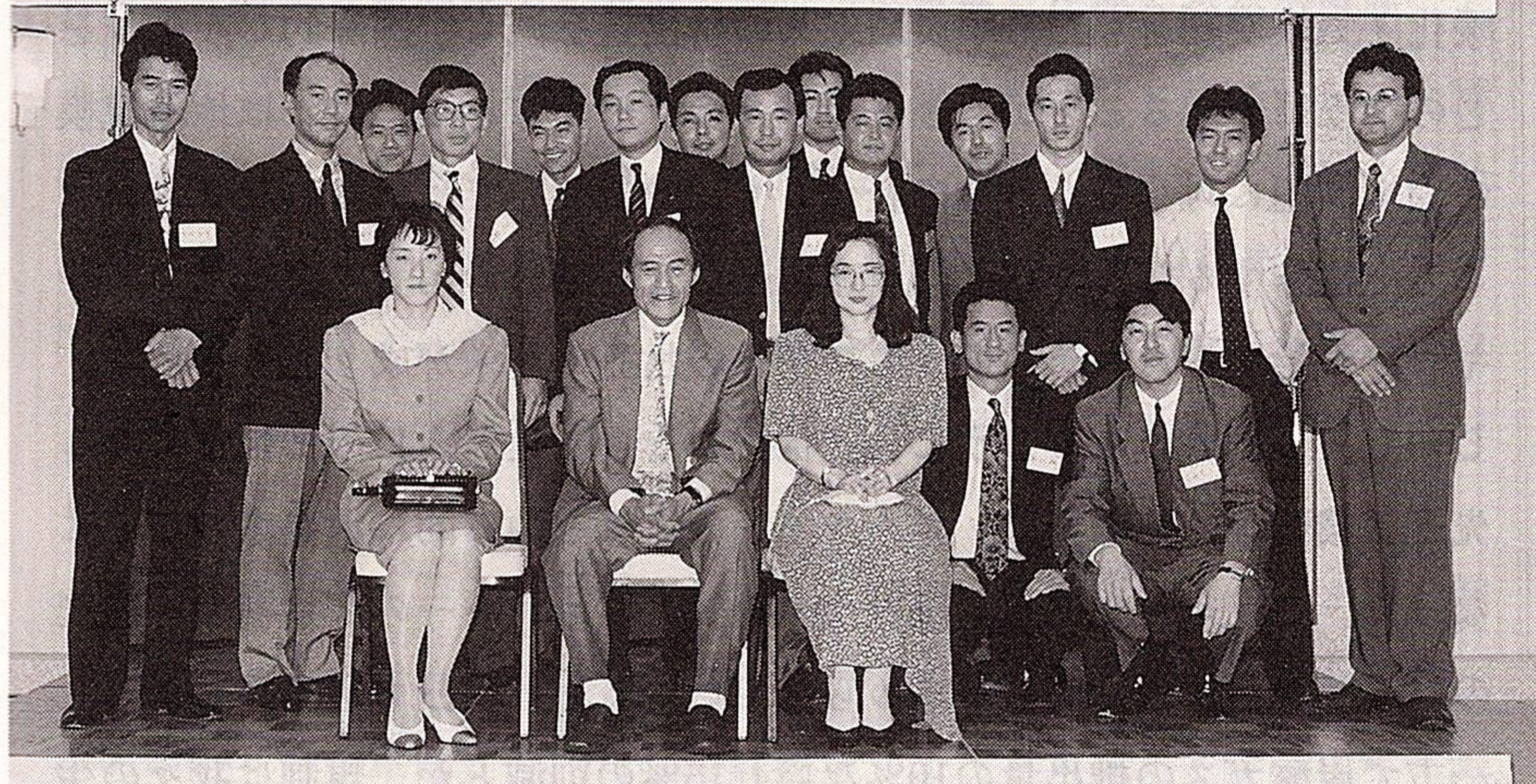
高橋賢一教授退職記念の集い
自動車部創部40周年記念



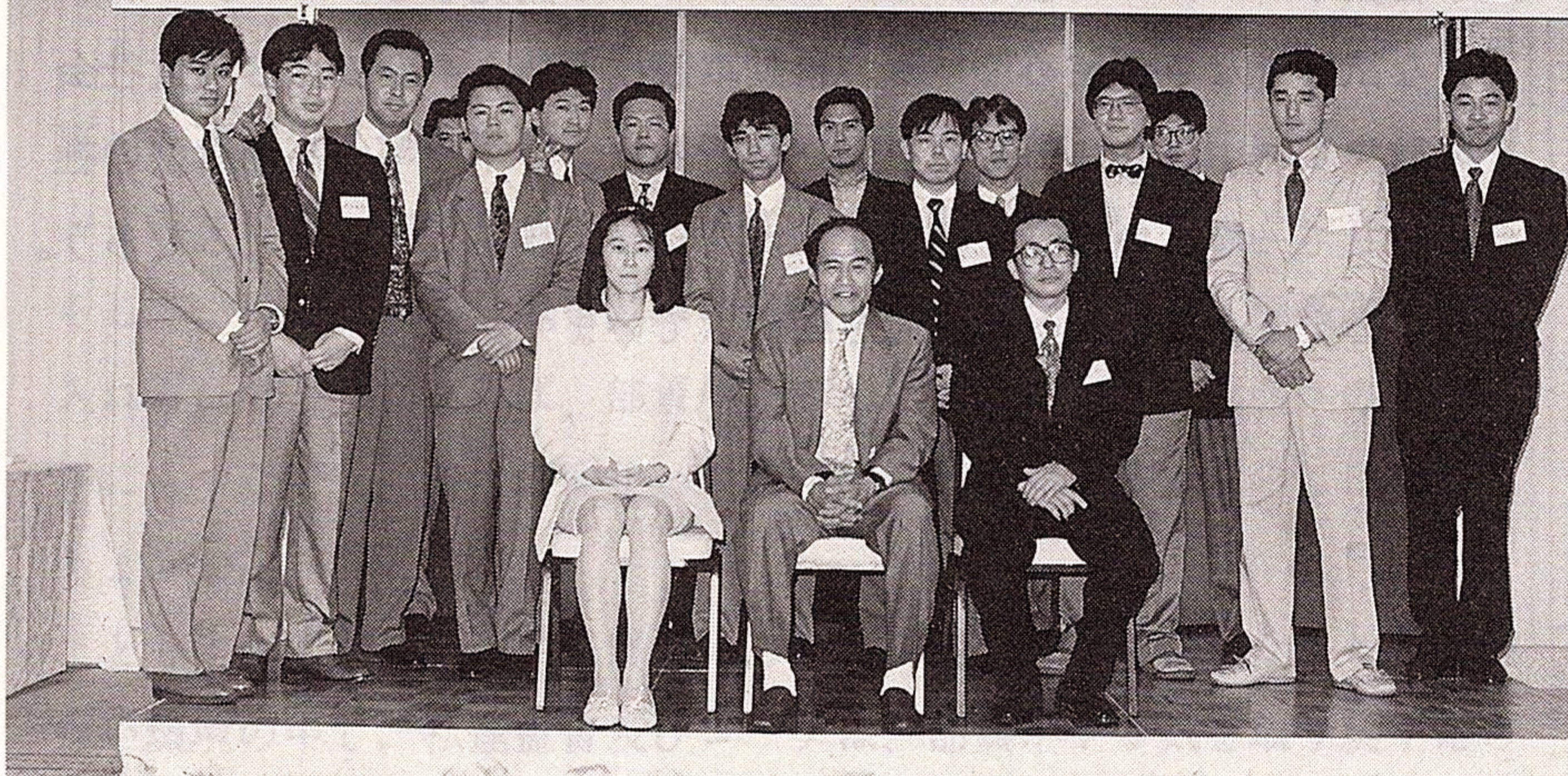
高橋賢一教授退職記念の集い
自動車部創部40周年記念



高橋賢一教授退職記念の集い 自動車部創部40周年記念



高橋賢一教授退職記念の集い 自動車部創部40周年記念



部長先生挨拶

竹尾茂樹

地球温暖化防止京都会議（COP3）が12月1日から開催されている。温暖化と気候変動をもたらす炭酸ガスの排出量を減らす国際的なルールをどのようにつくることができるかがそのテーマである。これは地球規模の環境問題に対して、日本の社会ももはや無関心ではいけないということの意味するだろう。産業革命以来、化石燃料の消費によってエネルギーを供給するシステムのうえに今日の世界の繁栄が成り立っている。しかし、よく言われるように、20世紀になって世界人口の2割をしめる先進工業国が、地球資源・エネルギーの8割を独占的に消費することになった。こうした先進工業国社会の物質・エネルギーの大量消費・廃棄のパターン自体の見直しが求められていることは明白である。しかし、一方で炭酸ガスの排出量の10%ないし15%の削減とか、規制は我々の生活にどんな影響をもたらし、どのように結びつくかを想像することは易しいことではない。評判のわるい運輸部門のエネルギー消費であるが、乗用車やトラックなどの需要をいっきに減らすことは不可能であろう。大手自動車メーカーによるハイブリッドカーの開発など、オルターナティブな試みもなされ始めている。自動車競技という、ある点で現代社会を象徴するスポーツに気持ちを繋いだ皆様は、エネルギー高消費型の社会に対して一層広い視野を提供するポジションにいるとも言えるだろう。そのことをもって社会への還元を期待しています。

自動車部の現状

監督 小林岳史

OB会の皆様には、たび重なる御援助誠にありがとうございます。近年では特に排ガス規制による部車トラックの買換えに伴う資金の援助、トラックの提供、また、購入に至るまで1年半の期間で8度にわたる会議の場をもつていただきました。おかげさまで992,700円という多額の援助をいただき、平成7年に三菱キャンター2トンロング（新車総額270万円）を購入することができました。幹事会の先輩方、また資金援助に協力していただいたOBの皆様には、現役部員一同、心より感謝いたしております。

さて、近年のモータースポーツブームが若い世代に広まり、学生も個人で車を持ち自動車競技に参加できるようになった現在、体育会と言う枠の中の「自動車部」で、自動車競技をしようと入部する学生は年々減少しています。事実、現役部員数は9名で、1年生はゼロといった状況です。また、白金校舎改築に伴う再度の部室移動による体育会各部室の縮小の可能性があります。そのような環境の中で現役部員の熱意を活かすために、対外的なアピールをし、自動車部への魅力を理解してもらい、1人でも多くの学生、その他個人、団体に賛同又は協力をお願いする必要があります。そのためにも、少ない部員で現在、力を注いでいるスピード競技から、まず部員自身を魅了する活動を心がけていくつもりです。そして、将来訪れる電気自動車の時代を踏まえた活動を、積極的に取り入れられるようになれば、部員への新しい刺激になり、周囲へのアピールにもつながり、時代の変化に対応する自動車部を望めるのではないのでしょうか。

ともすれば、部員が義務感にとらわれ、消極的な活動にならざるを得ない環境の中で、私達監督及びコーチは、部員がやる気を取り戻すため

のスパイスになればと思います。

今後ともOB会の皆様の御理解、御協力を承りたく宜しくお願いいたします。



・三菱キャンター2トンロング



「明治学院大学体育会自動車部OB会々則」

(名 称)

第1条 本会は明治学院大学体育会自動車部OB会と称し、本部を明治学院大学体育会自動車部（以下自動車部と云う）内に置く。

(目 的)

第2条 本会は会員相互の親睦と、社会生活の向上発展を計ると共に、自動車部の技術向上、発展に対して、指導し援助する事を目的とする。

(構 成)

第3条 本会は、明治学院大学を卒業時に、自動車部の部員であった者にて構成する。(但し上記以外の人でも、役員会の承認を得たものは、この限りにあらず。)

(身 分)

第4条 本会は終身会員とする。(但し役員会で不適格者と認められた者はこの限りにあらず。)

(役 員)

第5条 本会は次の役員を置く。

- | | |
|---------|-----|
| 1. 名誉会長 | 1名 |
| 2. 顧問 | 若干名 |
| 3. 会長 | 1名 |
| 4. 副会長 | 2名 |

5. 幹 事 長	1名
6. 常任幹事 (卒業3, 4年毎)	若干名
7. 幹 事 (各年度)	若干名
8. 会 計	1名
9. 会計監査	2名

(役員の選出)

第6条 役員は次の方法により選出する。

1. 名誉会長 会長経験者又はOB会総会の総意により選出された人であること。
2. 顧問 役員会の推薦による。
3. 会長 OB会総会の総意により、自動車部創設者、又は長年に亘り本会へ功勞のあった人の中より選出する。
4. 副会長 常任幹事の中より選出し会長の承認を得る。
5. 幹事長 常任幹事及、幹事の中より過半数以上の賛成による。
6. 常任幹事 幹事の中より卒業3, 4年毎に選出する。
7. 幹事 各卒業年度生の推薦による。
8. 会計 幹事長の任命による。(常任幹事, 幹事の中より。)
(書記兼務)
9. 会計監査 会計と同様

(役員の任務)

第7条 役員の任務は次の通りとする。

1. 名誉会長 役員会への助言を行なう。
2. 顧問 役員会への助言を行なう。

3. 会 長 本会々務の統括。
4. 副 会 長 会長を補佐し、会長に事故ありたる時は、その
任務を代行し、OB会運営の責に当る。
5. 幹 事 長 常任幹事会、幹事会の運営の任に当り、会長、
副会長に事故ありたる時は、その任を代行する。
6. 常任幹事 幹事会の上に位置し、幹事長を補佐し、日常業
務の執行の任に当る。
7. 幹 事 幹事長、常任幹事を補佐し、必要ありたる時は
会務執行の任に当る。
8. 会 計（書記兼務） 本会の会計経理に当る。
9. 会計監査 本会々計経理監査の任に当る。

（役員会の構成）

第8条 役員会は会長以下で構成し、その召集は会長、副会長又は幹事
長がこれを行う。但し副会長又は幹事長が召集するときは会長の
承認を得る事とする。

（役員の任期）

第9条 役員の任期は1年とし、再任は妨げない。

（総 会）

第10条 総会は定例総会と臨時総会とし次の通り開催する。

1. 定例総会 年1回会長の召集により開催する。
2. 臨時総会 役員会、常任幹事会、幹事会又は会員の特別要
請があり、会長が必要と認めたる時。

（総会の任務）

第11条 総会は出席者数の過半数をもって次の事項を決議する。

1. 会則の改正（補正）事項
2. 会費及び決算に関する事項

3. 役員，幹事の承認

4. その他会長が必要と認める事項

(常任幹事会)(幹事会)

第12条 幹事長は常任幹事会，幹事会を召集し出席者数の過半数により次の事項を審議し決議する。

1. 監督，コーチの承認

2. 現役役員の承認

3. 会報及び会員名簿の作成（但し実務は現役が代行する場合がある）

4. その他本会の目的に従い必要と認める事項

(経 費)

第13条 本会運営の経費は会費及び寄付金をこれにあてる。但し会費については別にこれを定める。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

(支 部)

第15条 本会は役員会又は総会の承認により，本会と目的を同じくする支部を地方に設ける事が出来る。

(会費納入)

第16条 1. 年会費は5,000円とする。

2. 納入方法は振込み制とする。

郵便振替口座 東京9-121944

明治学院大学自動車部OB会

- 附 則 1. 本会則は昭和49年4月1日よりその効力を発生する。
2. 昭和56年7月4日、OB総会で、名誉会長、常任幹事の項目を改正。
3. 平成5年11月14日OB総会で（会費納入）第16条を改正。

編 集 後 記

この度、湖北第6号を皆様にお届けできることを非常に嬉しく思います。発刊のスケジュール決定後、皆様の住所・状況等確認依頼をさせていただきながら、長い間お待たせいたしまして申し訳ありませんでした。

いつもの事ながら現役任せ幹事任せの幹事長で木村君・兼田君他各年代諸氏のご協力を頂き、やっとこの度発刊いたすことができました。

年に数回開催する幹事会で事業計画を策定し、あれもしたいこれもしたいとは話し合うのですが、具体的に計画できず大変申し訳なく思います。OBの為のOB会ではありますが、現役諸君の窮状を見るにつけてできるだけ応援したいと思い、指導を続けてくれている監督・コーチの補助金や現役の援助金として使用している割合も多くOBの皆様に還元できずにおります。

今後共、OBの皆様の絶大なるご協力をお願いいたしますとともに、住所等の不明の方々についてご存じの方がおられましたら会費振込用紙の通信欄をご利用頂き、ご一報頂ければ幸いに存じます。

幹事長 久米 誠